

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4090600042
法人名	北九州福祉サービス株式会社
事業所名	きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡東区帆柱4丁目1-22 (電話) 093 - 663 - 9500

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年2月7日	評価確定日	平成20年3月21日

【情報提供票より】(平成20年2月7日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成19年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	8人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.95人

## (2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000円・49,000円・51,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費(15,000円)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(250,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	- 円
	または1日当たり 1,500円			

## (4) 利用者の概要(2月7日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2		3名	
要介護3	4名	要介護4		0名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 86.4歳	最低	78歳	最高	91歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	たつのおとしごクリニック / かじわら歯科医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱は、北九州市八幡東区の街なかに位置し、民家を改修・増築した昔懐かしい雰囲気があるグループホームで、帆柱山の眺望に恵まれた環境を有している。グループホームは「人生を自由に悠々と過ごし、元気で笑顔のある暮らし」を実現するために、地域との交流やふれあいを高め、地域の中で暮らし続けることを理念に掲げている。グループホームの中庭は、増築する際に中庭の空間を活かすことにこだわり、帆柱山の眺望を中庭からのぞめることが、入居者の大きな安らぎと楽しみになっている。また、家庭菜園もあり、入居者と職員が収穫を楽しみにお世話をしている。街なかの環境の良さを活かし、日常の外出が多く、入居者も職員も活き活きとしているグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の準備として、職員会議において自己評価と外部評価について説明を行い、外部評価の意義と理解を高めている。評価結果については、今後、内容を検討し職員と共に改善に向けて取り組みたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は家族の参加が多く、家族の意見や要望を聞く大きな機会となっている。会議では、入居者の現況報告・行事報告を行い、地域包括支援センター担当者より、認知症介護の研修の案内など情報交換の場となっている。出された意見や要望などは、職員の周知を図り、検討すべき内容のものは職員全員で議論し対応している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	相談窓口として、事業所とは別に「お客様相談室」を設け対応できる体制がある。出された意見・要望は記録を残し、管理者へ報告するようにしている。また、運営に反映していくために職員で話し合う機会をつくっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、盆踊り大会や餅つきなど地域行事に参加している。また、近隣の保育園との交流も活発に行い、地域との良好な関係を築いている。また、近郊に市民センターの分館がオープンすることになっており、更に入居者が趣味の講座に参加するなど積極的に地域との関わりを高めていきたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人生を自由に悠々と過ごし、元気で笑顔のある暮らし」を目指し、「地域の中で、その人らしく暮らし続けるために、入居者が安心して生きがいもてる日常生活を支援していく」ことを理念に掲げ、日々のケアに取り組んでいる。今後のケアの状況に基づき、理念を高めていきたいと考えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には、理念を必ず伝えている。また、事務所には理念を掲示しており、ミーティングや研修の際には、意識して理念の確認を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、盆踊り大会や餅つきなど地域行事に参加している。また、近隣の保育園との交流も活発に行い、地域との良好な関係を築いている。また、近郊に市民センターの分館がオープンすることになっており、更に入居者が趣味の講座に参加するなど積極的に地域との関わりを高めていきたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の準備として、職員会議において自己評価と外部評価について説明を行い、外部評価の意義と理解を高めている。評価結果については、今後、内容を検討し職員と共に改善に向けて取り組みたいと考えている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族の参加が多く、家族の意見や要望を聞く大きな機会となっている。会議では、入居者の現況報告・行事報告を行い、地域包括支援センター担当者より、認知症介護の研修の案内など情報交換の場となっている。出された意見や要望などは、職員の周知を図り、検討すべき内容のものは職員全員で議論し対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者と情報交換を行い、研修の案内など、家族に向けて情報の発信を行い、サービスの質を高めるために取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	管理者やケアマネジャーは更新研修の際、職員全員に権利擁護の伝達研修を行っている。研修の記録がないため、今後は、研修の記録(研修の日時や参加者名がわかる)の整備が求められる。また、職員が権利擁護に関して家族に情報提供できるスキルアップが望まれる。		研修の実施については、研修の実績(記録の整備)が求められ、今後の中で取り組むことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が多く、入居者の状態や状況は面会時にその都度、報告している。毎月1回「帆柱での生活報告」として、日常生活・健康状態・日常の過ごし方・喜んだ出来事など、詳しく報告を行い、家族の安心と信頼を得ている。金銭管理は預かり出納簿にて記録し家族に確認している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口として、事業所とは別に「お客様相談室」を設け対応できる体制がある。出された意見・要望は記録に残し、管理者へ報告するようにしている。また、運営に反映していくために職員で話し合う機会をつくっている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、法人グループ内での異動がないように努めている。現在、職員の離職はないが、今後の対応として、離職の際には、入居者と職員のなじみの関係に配慮した人材の配置を行いたいと考えている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用にあたっては、一概に性別や年齢で判断しないようにしている。認知症ケアに適した人材の確保に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	「高齢者虐待について」の研修参加を行い、職員の伝達研修を行い、入居者の人権尊重の共有意識を高めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	平成20年度の研修計画は立案中である。定期的には北九州市社会福祉協議会からの研修案内があり、職員に周知し、参加したい研修には、勤務ローテーションを調整するなどバックアップしている。また、職員のモチベーションアップのために目標評価制度を実施し、職員が目標を明確にし、日々のケアに取り組めるように支援している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	研修参加の機会を利用し、同業者との情報交換・交流を図るように努めている。更に多様な交流の機会をとらえ、グループホーム同士のネットワーク化の強化を高めてほしい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居の際には、すぐに入居とせず、1～3日程度の体験入居により、入居者と十分にコミュニケーションを図り、環境になじんでいただき、入居していただけるように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中では、雨戸の開閉・食事の準備・片づけをはじめ、裁縫が得意な方は靴下にネームを入れていただき、書道の得意な方は、誕生日のメッセージカードを作成、活け花の得意な方は花を活けていただいたり、暮らしの中で自身の役割を担っていただいている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を採用し、日々の気づきや思い・意向を把握し、介護計画へ反映するように努めている。センター方式を活用し、日々の職員の気づきや思い・意向を書きとめるなど、一定の期間でそれらのまとめたものを振り返り、入居者の全体像を把握していくなどセンター方式の活用が求められる。</p>		<p>日々の入居者の思いや意向は、一定の期間をおいて、総合して判断することが求められ、日々の気づきのメモなど、新たな情報を付け加えながら、入居者の全体像をとらえ、深く掘り下げていくことが必要である。</p>
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、入居者の状態を把握し、入居者や家族の要望を確認し作成している。介護計画を作成する上で、医療情報の充実(身体状態・病歴など)が求められる。また、介護計画は、日常的なケアの内容まで含まれており、職員が統一したケアが行えるように短期目標におけるケア内容の整理が必要である。医療連携の関係で看護計画も必要である。</p>		<p>医療情報は認定審査会の資料を入手し、介護計画を立てる上で医療情報を確認することが求められる。また、介護計画の内容の整理が必要で、日常的なケアを省き、ケア目標に対するケア内容が明確にわかるように取り組むことが必要である。バイタルと薬の関係に注意してほしい。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>目標達成状況を示すサービス評価表があり、ケア目標に応じて評価を行っている。内容が身体機能の維持を念頭においたものとなっており、介護計画が実際の暮らしの支えになるために、どのような評価を行っていくかが重要である。月1回のミーティングや定期的な見直し、状態変化に応じた見直しなど行っている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>グループホームの近郊に同法人のきたふくグループのデイサービスセンターが立地しており、運動会など行事の際には合同で開催するなど、スケールメリットを活かした行事を楽しんでいただけるように取り組んでいる。また、法人の人材応援があり、入居者も家族も安心して参加できるようにサポート体制がある。</p>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は、月2回の往診を行う協力医療機関の主治医が多いが、皮膚科や整形外科・歯科など、これまでのかかりつけ医を希望される方は受診できるように支援している。歯科の往診も入居者の希望にそって支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	開設してまもないため、具体的な検討はできていないが、重度化や終末期に向けた指針「重度化した場合における対応に関わる指針」がある。今後は、入居者や家族の意向を把握し、終末期に向けた取り組みを関係者との話し合いの上、取り組まれることを期待したい。		家族の参加が多い運営推進会議などの機会をとらえ、家族の意向を把握すると共に、法人グループとしての多様な対応も視野に入れ、終末期における具体的な対応を検討していくことが求められる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日常の言葉かけに配慮しており、基本的には敬語をつかうように取り決めがある。親しみのある言葉かけでありながら、丁寧であることを意識した配慮を行うように指導している。個人情報に関する記録などの書類は2階の事務所に保管・管理されている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の生活リズムを大切にしながら、朝のストレッチ体操・食前の発声練習・嚙下体操など身体機能の維持を行い、決まった時間以外は、入居者の希望や要望に応じて自由に過ごしていただけるように支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者ができる範囲で食事の盛りつけ・配膳・片づけなど手伝っていただき、日々の会話の中で食べたいと言われた「だんご汁・ぎょうざ・たこ焼き」など入居者自身が楽しんで作っていただけるように支援している。また、外食も月1回楽しんでいただけるように支援している。食べたいおやつはご自身で買っていただくことも支援している。晩酌も楽しんでいただいている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は、月・水・金と時間をかけて、ゆっくりとくつろいで、いただけるように支援している。今後は、入居者の希望に応じて、出来るだけ、好きな時に入浴していただけるように取り組みたいと考えている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の趣味や特技を活かして、畑の水やり・買い物 の荷物運び・雨戸の開閉・食事の準備や片づけ・洗濯 物干しなど役割を担い、責任をもって取り組んでいただ いている。日常的には散歩やドライブなどを楽しんでい ただけるように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみご と、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日常的には、散歩や買い物の外出を楽しんでいただ いている。季節に応じて市内のあちこちを花見に出かけ るなど、季節を感じていただけるように取り組んでいる。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその 日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援 している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は本人に気づかれないように入居者がどこに いるかを把握し、鍵をかけないケアを実践している。玄 関には、チャイムを設置し、外出の状況を把握できる ように取り組んでいる。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵 をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけない ケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回、消防訓練を行い、そのうち1回は消防署の協 力がある。災害は夜間時の発生も考えられ、地域住民 の協力が必要な状況もあり、今後は、運営推進会議 や町内会を通じて、地域住民の協力・参加を期待 したい。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより 地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	同法人の近郊のデイサービスセンターの栄養士が 献立を立て、栄養バランスや摂取状況はきちんと把握 されている。水分摂取量も1日1,000～1,200ccの 確保を目指し、水分補給チェック表に記録している。 調理は2名の担当者がおり、雑穀米など取り入れ健 康に留意し味付けなど工夫がある。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	日本家屋の良さを活かした民家改修型のグループホームである。特に共用空間からの眺望は山々を眺め、ゆったりとした気持ちを抱かせるものとなっている。共用空間は中庭に面し、晴れた日は日光浴を楽しんでいただけるような工夫がある。共用空間の奥には掘り炬燵のある和室があり、憩いの空間として親しまれている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室の入り口には、個性的な暖簾が掛けられ、カーテンも好みの物で思い思いの居室づくりを支援している。居室の広さも民家改造型の特性を活かし、多様な空間となっている。使い慣れた家具なども持ち込まれ、入居者の個性を大切にした居室空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			